第１・２学年　生活科

１　学年の目標

(1) 自分と身近な人々及び地域の様々な場所，公共物などとのかかわりに関心をもち，地域のよさに気付き，愛着をもつことができるようにするとともに，集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え，安全で適切な行動ができるようにする。
(2) 自分と身近な動物や植物などの自然とのかかわりに関心をもち，自然のすばらしさに気付き，自然を大切にしたり，自分たちの遊びや生活を工夫したりすることができるようにする。
(3) 身近な人々，社会及び自然とのかかわりを深めることを通して，自分のよさや可能性に気付き，意欲と自信をもって生活することができるようにする。
(4) 身近な人々，社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに，それらを通して気付いたことや楽しかったことなどについて，言葉，絵，動作，劇化などの方法により表現し，考えることができるようにする。

学年の目標は，教科目標をより具体的に示したものであり，指導計画の作成や学習指導の展開に重要な役割をもっている。ここに示された目標は，第２学年終了までに実現させる目標である。

２　指導の要点

生活科の学習活動を充実したものとして展開するに当たっては，学習指導要領の目標及び内容を踏まえ，年間指導計画，単元計画などの指導計画を綿密に作成することが必要である。また，指導計画を具現するために，生活科学習の特質を生かした適切な学習指導を行うことが大切である。

学習指導の特質は，以下の五つが考えられる。

○　児童の身近な生活圏を活動や体験の場や対象にする。
○　児童が身近な人や社会，自然と直接かかわる活動を重視する。
○　児童の思いや願いをはぐくみ，意欲や主体性を高める学習過程にする。
○　働きかける対象についての気付きとともに，自分自身に気付くことができるようにする。
○　児童の姿を丁寧に見取り，働きかけ，活動の充実につなげる。

また，学習指導の進め方としては，以下の点に留意する。

○　振り返り表現する機会を設ける。
○　伝え合い交流する場を工夫する。
○　試行錯誤や繰り返す活動を設定する。
○　児童の多様性を生かす。

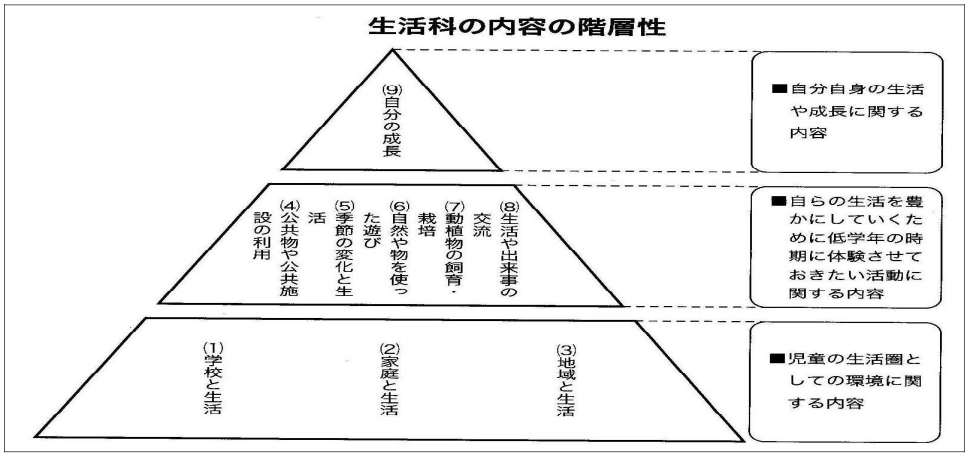
３　生活科の内容

生活科は，複数の内容を組み合わせて単元を構成することが多い。単元を構成する際，内容の構成要素と段階性を意識することによって，内容の漏れや落ちがないように配慮する。

(1) 生活科の内容の階層性

生活科の内容は大きく九つに分かれる。

児童の生活圏としての環境に関する内容を土台にし，自らの生活を豊かにしていくための内容，さらには，自分自身の生活や成長に関する内容へと，つながりを見せた階層となっている。



(2) 生活科の各内容の構成要素と全体構成

階層	内 容	構 成 要 素		
		１学習対象・学習活動等 児童が直接かかわる学習対象や実際に行われる学習活動等	２思考・認識等 対象とのかかわりや学習活動を通して生まれる気付きなどの一人一人の思考や認識等	３能力・態度等 １，２を通して一体的に育まれる能力・態度等
第１ 児童の生活圏としての環境に関する内容	(1) 学校と生活	○ 学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かる。 ○ 通学路の様子やその安全を守っている人々などに関心をもつ。		○ 楽しく安心して遊びや生活ができる。 ○ 安全な登下校ができる。
	(2) 家庭と生活	○ 家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考える。		○ 自分の役割を積極的に果たすとともに，規則正しく健康に気を付けて生活することができる。
	(3) 地域と生活	○ 自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かる。		○ それらに親しみや愛着をもち，人々と適切に接することや安全に生活することができる。
第２ 自らの生活を豊かにしていくために低学年の時期に体験させておきたい活動に関する内容	(4) 公共物や公共施設の利用	○ 公共物や公共施設を利用する。	○ 身の回りにはみんなで使うものがあることや，それを支えている人々がいることなどが分かる。	○ それらを大切にし，安全に気を付けて正しく利用することができる。
	(5) 季節の変化と生活	○ 身近な自然を観察したり，季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどする。	○ 四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに気付く。	○ 自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできる。
	(6) 自然や物を使った遊び	○ 身近な自然を利用したり，身近にある物を使ったりなどして，遊びや遊びに使う物を工夫してつくる。	○ その面白さや自然の不思議さに気付く。	○ みんなで遊びを楽しむことができる。
	(7) 動植物の飼育・栽培	○ 動物を飼ったり植物を育てたりする。	○ それらの育つ場所，変化や成長の様子に関心をもち，また，それらは生命をもっていることや成長していることに気付く。	○ 生き物への親しみをもち，大切にすることができる。
	(8) 生活や出来事の交流	○ 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人人と伝え合う活動を行う。	○ 身近な人々とかかわることの楽しさが分かる。	○ 進んで交流することができる。
第３ 自分自身の生活や成長に関する内容	(9) 自分の成長	○ 自分自身の成長を振り返る。	○ 多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと，自分でできるようになったこと，役割が増えたことなどが分かる。	○ これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに，これからの成長への願いをもって，意欲的に生活することができる。

(3) 内容構成の視点

(1)～(9)の内容は，　以下の表に挙げる三つの基本的な視点と11の具体的な視点（ア～サ）が基となる。各学校，学級の実態により，単元を組み立てる際の参考として下記の具体的な視点を活用することができる。

基本的な視点	具体的な視点	
自分と人や社会とのかかわり	ア　健康で安全な生活	健康や安全に気を付けて，友達と遊んだり，学校に通ったり，規則正しく生活したりすることができるようにする。
	イ　身近な人々との接し方	家族や友達や先生をはじめ，地域の様々な人々と適切に接することができるようにする。
	ウ　地域への愛着	地域の人々や場所に親しみや愛着をもつことができるようにする。
	エ　公共の意識とマナー	みんなで使う物や場所，施設を大切に正しく利用できるようにする。
	オ　生活と消費	身近にある物を利用して作ったり，繰り返し大切に使ったりすることができるようにする。
自分と自然とのかかわり	カ　情報と交流	様々な手段を適切に使って直接的間接的に情報を伝え合いながら，身近な人々とかかわったり交流したりすることができるようにする。
	キ　身近な自然との触れ合い	身近な自然を観察したり，生き物を飼ったり，育てたりするなどして，自然との触れ合いを深め，生命を大切にすることができるようにする。
	ク　時間と季節	一日の生活時間や季節の移り変わりを生かして，生活を工夫したり楽しくしたりすることができるようにする。
	ケ　遊びの工夫	遊びに使う物を作ったり遊び方を工夫したりしながら，楽しく過ごすことができるようにする。
自分自身	コ　成長への喜び	自分でできるようになったことや生活での自分の役割が増えたことなどを喜び，自分の成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつことができるようにする。
	サ　基本的な生活習慣や生活技能	日常生活に必要な習慣や技能を身に付けることができるようにする。

4　年間指導計画の作成にあたって

年間計画を作成する際は，以下の５点に留意する。

○　児童の実態に対応する。　○　地域の環境を生かす。　○　指導体制を整える。
○　授業時間数を適切に割り振る。　○　２年間を見通し立案する。

5　単元構想にあたって

(1) 基本的な構成

生活科の単元は，内容(1)～(9)を基に，児童の思いや願いの実現に向けた学習活動が意図的，計画的に構成されなければならない。生活科の単元には，次のような特徴がある。

○　児童の思いや願いの実現に向けた必然性のある学習活動で構成する。
○　具体的な活動や体験の中に，児童一人一人の思いや願いに沿った多様な学習活動が位置付けられている。
○　学習活動を行う中で，高まる児童の思いや願いに弾力的に対応できる柔軟性がある。
○　それぞれの学校や地域の特性を把握し，そのよさを生かされている。

このような生活科の単元の特徴を大切にし，それぞれの学校で創意工夫ある単元計画を作成することが求められる。

(2) 指導計画作成上の配慮事項

○　内容の組み合わせ

児童の意識を重視するとともに，学校や地域の特性を生かし，内容(1)～(9)を組み合わせて，一つの単元を構成するようにする。

○　学習活動の組織化

・　児童の興味や関心を具体的にとらえ，児童の立場から単元を構想するようにする。

・　児童の思いや願いが高まる可能性のある対象を選定し，学習材のよさが引き出されるようにする。

・　選定した学習対象によって具体的な学習活動を想定するようにする。

・　単元の学習過程の中で，個と集団の学習を効果的に配置するようにする。

・　学習活動の繰り返しを重視し，対象とのかかわりを深め，気付きの質を高めるようにする。

○　発達・成長への配慮

・　身近な学校から，行動半径を広げ，空間的な認識を拡大していくようにする。

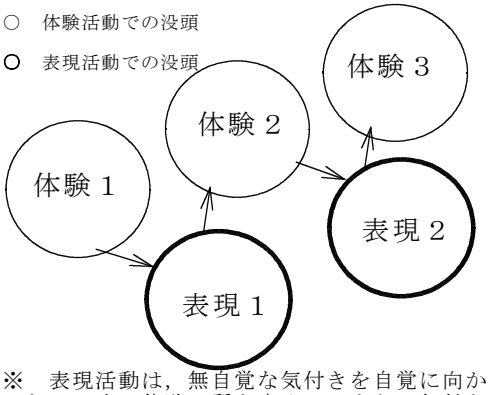
・　対象と継続的にかかわったり，自己の成長を振り返ったりする活動を通して，共通の時間軸を形成し，時間の感覚を確かにしていくようにする。

・　技能などの習熟の実態を把握し，個に応じた指導を丁寧に行うようにする。

○　体験活動と表現活動の適切な位置付け

・　体験活動が質的に高まるように意図的・計画的な単元構想をするとともに，体験したことを言葉などによって振り返る表現活動を適切に位置付けるようにする。また，体験活動と表現活動の相互作用により，学習活動を質的に高めていくようにする。

体験活動と表現活動の相互作用



※　表現活動は，無自覚な気付きを自覚に向かわせ，次の体験の質を高める。また，気付きを共有することで，新しい体験活動へと発展させることができる。

○　他教科との関連的な指導とスタートカリキュラムの効果的な実施

・　国語科，音楽科，図画工作科など他教科等との関連を積極的に図る。特に，入学当初においては，生活科を中心とした合科的な指導を行うなどの工夫をする。(スタートカリキュラム)

・　スタートカリキュラムの実施により，幼児教育から小学校教育への円滑な接続を図るようにする。

６　評価の観点の趣旨

生活科は，活動や体験の過程を重視して評価をする。学習過程における児童の関心・意欲・態度，思考･表現，気付きを評価し，目標の達成に向けた指導と評価の一体化を図る。

評価の観点	観　点　の　趣　旨
生活への関心・意欲・態度	身近な環境や自分自身に関心をもち,進んでそれらとかかわり，楽しく学習したり，生活したりしようとする。
活動や体験についての思考・表現	具体的な活動や体験について，自分なりに考えたり，工夫したりして，それをすなおに表現している。
身近な環境や自分についての気付き	具体的な活動や体験によって，自分と身近な人，社会，自然とのかかわり及び自分自身のよさなどに気付いている。

また，次のことについて，留意する。

○　目標に準拠した評価であることから，単元の目標を明確にする。

○　指導計画とともに評価計画を立てる。

○　より信頼性の高い評価となるように，様々な立場からの評価資料を収集する。

○　１単位時間の評価及び，単元全体や授業時間外の児童の変容や成長の様子をとらえるなど，長期にわたる評価も大切にする。

○　「活動や体験についての思考・表現」の表現は，思考と一体化するものであり，形式や表現の技能よりも気付きの内容を重視するものである。